時間制約に苦しむ現在に於て、院本に忠實な演出は無理かも知れない。從つて適當に整理された新訂本の必要はあらうと思ふ。しかし、それは單に朱筆で樺消しにした改訂であつてはならない。作者の構想を會得して一見ぼぐした各部分を創作的に組み直すだけの用意が必要である。或部分を鋏で截り取るやうな亂暴な改訂でなく、逐字的に節譜を參酌しつゝ再檢討した定本でなければならない。

古典劇の正しい演出とは、時間に關係なく院本に準據してやるか、以上の意味を含んだ良心的な新定本を作るかの二つ以外には無い筈である。しかも、後者の方が實際的には必要でありながらより以上多くの困難があり、努力を要する問題である。しかし、必しも不可能の問題ではない。（終）

百回を重ぬる近松研究會

大近松の殆んど全部の名作をその至藝によつて宣揚した竹本政大夜は、義大夫節の完成者であり且つ斯道第一の名匠であるが、その眞相が知られてゐないのを遺憾とし、近松研究會ずは七月廿五日、最も記念すべき百回を巨匠政大夫の墓碑ある天王寺夕陽丘町天瑞寺で開催、墓前回向（不開院乾外孤雲居士、延享元年七月廿五日逝、導師杉實諦令師の後、講師木谷蓬吟氏は巨匠顯彰のため遺品の床本を前に、政大夫の藝と人格に就て心ゆくまで說き來り說き去りて滿場傾聽せしめ、宛も二百年忌に方り意義深き追悼會で、式後夕餐を俱にし座談に時を移して散會した。

第百一回 八月廿二日午後一時より日本橋二丁目松坂屋四階集會室で開催、講演は高野山史の劇的情趣と國民性と題して約三時間に亘る長廣舌△殺生關白秀次の寃を雪ぐ△近松の萬年草△女人禁制の怪奇極まる世界的秘史△瀧口入道と横笛、維盛とその妻、秀吉清盛、光秀、熊谷等々の譚や會員諸氏の雜話で賑つた（大阪市南區安堂寺町一丁目木村醫院内近松研究會、電話東五〇七六）

編輯錄

◇……本誌の編輯に關し重大なる責任を負ひ久しく奮闘されてゐた同人大西直孝君に對し何等報ゆる事もなく荏苒今日に及んでゐましたが、同君の有する產業報國の趣旨を尊重し今回編輯事務を社員が擔任、以て聊かなりとも同君の煩累を省き、產業勤務に專念せしむることゝなりました。しかし原稿蒐集やその他については、從來通りお世話下さる筈なれば讀者諸君の御期待は一層のものと信じます

◇……豐澤廣春師の建碑除幕式には、地方出張のため遺憾ながら參列し得なかつたが、殆んど斯界空前の雅擧であり、賞讃に値する殊勝な建策でありました、同師御連中も師の信仰をそのまゝ虛心坦懷、また勸め得たり矣。

◇素義銃後奉公會は新良貫草樂、村上信昇、石川力、朝田一朝の諸君や全會員の藝心いよ〳〵旺盛、決戰下において慰安に、士氣昂揚に機烈の火の玉となつた。